

「新・やまがた農業人」紹介



松藤 博人 さん 朝日町で就農

【出身地】千葉県

【就農前の職業】会社員

【就農年度】平成 16 年度(平成 15 年度、1 年間研修後独立)

【経営概要】りんご 120a、桜桃 100a、ぶどう 65a、桃 20a
西洋梨 10a

山形県での就農の動機や考え方

「何故、農業を一生の職業にしようと決めたのですか」と聞かれると「りんごでピンときた！」と答えています。とにかくりんごをつくりたかった。その中でも「ふじ」の栽培を極めたいと強く決意を固めたことを覚えています。

最高の「ふじ」がとれる場所なら日本中どこでもよかった。だから長野県と岩手県の一部の地域には未だにりんご生産地としての魅力を感じています。それでも山形県朝日町を選んだ理由は、無袋りんご生産地として日本で最も適した場所の一つと判断したこと他に、山形県には名産品として「さくらんぼ」と「米」があったからです。

農業をはじめる前の算段では、「優良なりんごの園地」が運良く手に入ってもりんごの収入だけでは、経営を黒字化するだけで精一杯と考えました。だからりんご以外の作物の収入が必要になる。そこで「りんご、さくらんぼ、米」の複合経営を念頭に農業をはじめ今日に至ります。

独立 1 年目と今日では経営規模や栽培技術において雲泥の差がありますが、いまだにりんご栽培は私の「夢」であり続けていますし、私の「根幹を振動させ続ける原動力」であることは間違いのないものであると感じています。「ピン！ときたものに人生を賭ける」、選択とは「感性」なのだと思います。